

2007年11月26日日本テレビ 定例会長社長記者会見

1. 今年1年を振り返って

記者：今回の会見で今年最後になりました。1年を振り返っていただきたいと思います。

久保伸太郎社長：日本テレビの業績、特に視聴率の低迷に端を発する業績低迷に対して、社長就任以来、あれこれと手を打ってきましたが、今年1年を振り返ってみると、やはり一番は、タイムテーブルの大胆な構造改革に乗り出したことです。これは昨年の秋、今年の春、今年の秋、そして来年の春という段階的な手順を踏んでいる構造改革戦略の一環です。今年4月には、ゴールデン、プライム帯の番組30%前後の改革に着手しました。今のところ、何とか改善の方向は見えてきました。トンネルはまだまだ長いけれども、その先にあかりは見えてきました。頑張りたいと思います。

2つ目は、4月1日からグループ会社、特に制作に関わるグループ会社を再編しました。グループとの一体化を今年の会社の目標に掲げています。完成度を高めていくために、双方の人事交流等やらなければいけないことは、今後もたくさんあります。

細川知正会長：一言で言うと、実りの前の我慢の年かなという実感ですね。今社長も申しましたように、手は打っているけれども、商品力が必ずしもまだ十分に回復していない。そして、いわゆる企業のポートフォリオとしての収益力の多元化というのも、まだ十分ではない。例えば全収入に占める放送外収入の比率というのは、キー局中多分4番目だと思います。ですから、まだ十分に実りを迎えていない。しかし、それに向かって着実に整理は進んでいると思います。だから、実りを期待しつつ、今我慢しているときだと。そのように感じています。

2. 最近の視聴率動向と年末年始編

記者：最近の視聴率動向と年末年始の編成については？

久保社長：最近の視聴率については、番組改編を重ねて、総じて見れば改善の傾向はかなり出てきていると思っていますし、世帯視聴率だけでなく、中身もよくなってきてていると思っています。

以前に、問題は曜日別の視聴率のばらつきであるとお話ししたかと思います。土曜、日曜はほぼ成功した。問題はウイークデーだと申し上げてきましたが、木曜日もゴールデン、プライムの時間帯は着実によくなってきました。やはりスタートダッシュの週明けのところですね。月曜、火曜に勢いがつかないと、というところはあります。

知的エンターテインメントというジャンルが、日本テレビの番組の柱だと思っています。もちろんスポーツにも力を入れていきますし、ニュースにも力を入れていきます。しかし娛樂色の強い番組、あるいは情報系の番組でも、知的エンターテインメントは伝統として受け継がれています。その非常に優れたDNAを生かした番組が結構花開いているので、今後も期待しています。

室川治久取締役：視聴率についていいますと、朝帯が大変好調になりました、「ズームイン!! S U P E R」、「スッキリ!!」、「ラジかるッ」のおかげで、午前6時から12時の視聴率では首位を独走しています。単に視聴率が上がっただけでなく、「視聴者層」については、いわゆるコア・ターゲット、13歳から49歳という層が非常に上がってきた。以前はもう少し上の世代に支持されていたのが、コア・ターゲットを狙えるソフトの中身に変わってきたと言えると思います。

2007年の年間視聴率ですが、11月の3週までで全日、プライム、ノンプライムは2位です。ゴールデンが3位ですが、これも熾烈な争いで、何とかゴールデンも少なくとも2位を取れればと頑張っています。

ちなみに、下半期（10月以降）は、11月3週までで、全日、プライム、ゴールデン、ノンプライムともすべて2位です。前年の同期比で全日が0.3%、プライムは0.8%上がっており、タイムテーブルの構造改革の成果が徐々に出ていると思います。

プライムタイムで好調を維持している番組は、「ザ！世界仰天ニュース」が15.8%です。「ぐるぐるナインティナイン」が15.3%、「ザ！鉄腕！D A S H!!」が16.7%、「行列のできる法律相談所」が18.3%と非常に好調を維持しています（視聴率はすべて10月期平均）。

またレギュラーパン組が成長し、強くなってきました。「太田光の私が総理大臣になったら… 秘書田中」は、10月期平均13.4%で、前年比プラス2.5%。とて

も大きく上昇しています。「世界一受けたい授業」の10月期平均は16.3%。前年比4.0%の伸びで、横並びでもトップという状態が続いています。

4月改編で、「天才！志村どうぶつ園」の放送枠を移動したのですが、10月期平均が14.2%で、前年の同時間帯番組と比較して5.0%伸びています。もう1つ、「世界の果てまでイッテQ！」は、10月期平均13.1%で、前年同時間帯比でプラス3.8%と非常に好調で、改編が成功したといえます。

また、10月改編で「オジサンズ11」と「おネエ★MANS」を始めましたが、まだ定着し切れていません。ただ、4月期の同時間帯に比べると1.2%は上がっているので、これからじっくりと中身を見ながら育てていって、いずれは2桁を狙えるような形にもっていければと思っています。

特番では、サッカーのTOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップジャパン2007。これは浦和レッズがアジア代表に決まりましたので、大いに期待できるなと思っています。12月10日の試合に勝つと、ACミランとの対決という夢のカードが実現します。

年末年始は、基本的には好調なレギュラーパートのスペシャルをどんどん組んでいこうと思っています。さらには恒例番組、「さんま&SMAP！美女と野獣のクリスマススペシャル」、「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!」、「はじめてのおつかい」、「大笑点」、「箱根駅伝」、それから「石田さんちの大家族」、「欽ちゃん&香取慎吾の全日本仮装大賞」等をラインナップしています。今の段階ではまだ調整中のものもありますので、追って発表します。

3. 来期のプロ野球中継についての方針

記者：来年のプロ野球中継については、今のところどんな感じでしょうか。

久保社長：来年の巨人戦を中心としたプロ野球中継については、これから相手先と交渉に入りますので、申し訳ありませんが、現時点ではちょっとお話を控えさせていただきたい。昨年も皆さまにお話をする機会を設けさせていただきましたが、今年も時機が来ればとは思っています。

もうひとつ、クライマックスシリーズについて。これは、テレビ局側から見れば、成功だったのではないかと思います。日本テレビでは、ジャイアンツが出場したクライマックスシリーズを2試合放送し、初めてのことでしたが、よい視聴率をとりました。やはり大一番の勝負は見たいという気持ちは強いのかなと思います。

4. 55周年企画について

記者：来年が開局55周年ということですが、どのような番組などを企画しているか、教えていただけますか。

久保社長：開局55周年企画は、「こんな〇〇見たことない」「こんな日テレ見たことない」がキャッチフレーズです。こんなドラマ見たことないとか、こんな何とか見たことないというのを共通のキャッチフレーズにして、2008年1月1日から2009年3月末まで展開します。

現時点で固まっているお話をしますと、「日テレ55」、これは日テレゴーゴーと読むんですけど、たとえば女性のアナウンサー複数名で、ゴーゴーガールズを結成します。

ドキュメンタリーでは、「シリーズ女たちの中国」。来年は北京オリンピックの年なので、日中友好促進とか、中国もの、日中ものの企画がいろいろ出てくると思いますが、そのシリーズの第一弾です。さらに、9月には、「新エジプト伝説」を予定しています。先日エジプト古代史の特番を放送し、大変高い人気を獲得しましたが、エジプト考古庁と提携をして、新たな発掘に取りかかっています。

カルチャー企画として、大型歴史ミステリーもやります。これは信長と秀吉と家康の話です。また、秋のカルチャー特番で塩野七生さんの「“ローマ人の物語”への旅」を予定しています。

映画は、2月に「DEATH NOTE」の спинオフ作品、「L」が公開されます。7月には、宮崎駿監督の新しいアニメ作品で、「崖の上のポニョ」。さらに、8月には、浦沢直樹作、堤幸彦監督の「20世紀少年」という人気漫画の映画化作品をお届けします。

美術関係のイベントで55周年企画となるのが、来年2月からのルノワール+ルノワール展です。父オーギュスト・ルノワールの絵画と息子ジャン・ルノワールの映画を同時に展観するもので、テレビ局ならではのイベントです。また、先日発表の記者会見を行った、1993年のカンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞した香港映画、「さらば、わが愛 霸王別姫」を蜷川幸夫さん演出、東山紀之さん主演で、来年3月にシアターコクーンで上演します。蜷川さんはこの芝居を、できれば国際舞台に持っていくたいとおっしゃっていました。これも55周年の冠を付けたいと思っています。

さらに、6月には私たちが力を入れている日テレecoウィークがあります。これは環境をテーマにイベント化したり、通常の番組の中に取り入れるなど、様々なことを考えています。

このほかにも大きい仕掛けがあるのですが、12月に発表させていただきます。

室川取締役：キヤッチフレーズの「こんな〇〇」について1つだけ付け加えます。例えば、「こんなキャスティング見たことない」のように「えー、こういう組み合わせあったの！」といったものも含みます。つまり単純にジャンルだけではなくて、作りの部分も含めた「こんな〇〇」と解釈していただければありがたいです。

5. 中間決算と下半期の見通し

記者：先日中間決算が発表されましたが、中間決算の感想と下半期の見通しをお願いします。

細川会長：これは中間決算でもお伝えしたように、放送収入が減って、放送外収入が増えたというのが大きな傾向です。日本テレビの状況は、回復しつつあるとはいっても、まだ商品力が完全な形になっていないということがあって、やはり放送収入は前期に比べてかなり下がりました。その分を放送外収入で補っているのですが、残念ながら全部補いきるというわけにはいかなかったということですね。

とはいっても、営業利益のベースでは、かなりコストコントロールが効いたというか、それなりの利益ベースを維持しまして、5月に予想したものよりは良くなりました。ただ、既に開示していますように、今期70億弱の大幅ないわゆる特別損失、有価証券の評価損を立てましたので、決算に関して言えばあのような数字になったということです。

下期に関しては、相変わらず放送収入が伸びることはあまり期待できない。その中で日本テレビは1月～3月、今お話ししました55周年企画の大型単発企画の収支を取り込み、それからまだ十分とは言えないけれども回復をしていく商品力を背景に、スポットに関するシェアも多少は上がってくるだろうということを読み込み、なおかつ上半期のコストコントロールの継続、そうしたものを全部含めた形で通期の見通しを出しています。

従って、いわゆる大型の特別損失を処理したという前提では、比較的健全な決算になっていくかなというような見通しを持っています。

6. 営業状況と放送外収入の動向

記者：最近の営業状況と放送外収入の動向も合わせて教えていただけますか。

久保社長：放送外収入については、他局さんと比較すると、まだまだ私どものウエートは低いのですが、これは努力、向上の余地があるということです。少なくとも放送外収入をもっと増やそうという努力の成果は着実に見えてきていると思います。

例えば、映画「ALWAYS 続・三丁目の夕日」ですが、先週末までの観客動員数は236万人に上りました。この動員数で最も特徴的なところですが、映画興行は、大体公開日の土・日、あるいは金・土・日の2日間とか3日間の出足で大体勝負がついてしまう。その数字を見て、もう次の作品にとりかかるとか、次の仕事に移るというぐらい移りが早い業界です。しかし、この作品は、先々週一旦動員数が落ちたのですが、先週再び盛り返し（前週比100.2%）ました。また増えたということは、私どもとしても非常に心強い思いです。第1作品のDVDが非常に売り上げにも寄与しているということも含めて、息の長い日本テレビの有力コンテンツになるのではないかと考えています

それから映画では、日本テレビ制作局・猪股隆一の初監督作品「マリと子犬の物語」が12月8日に封切りになります。昔は、小学校、中学校などで映画館に映画鑑賞に行きましたが、そうした鑑賞作品にぴったりと思われる非常に良質な映画です。新潟県中越地震の実話をテーマにしていて、既に地元新潟県長岡市では試写会も行いました。被災者の皆さんにもご覧をいただきましたが、当時を思い起こして、勇気をもらったというような讃辞をいただくなど、大変好評でした。動物と人間の愛情物語です。若い世代、お子さんの世代も含めて幅広く観ていただければと思っています。

それから、日本テレビは、海外への番組販売というのは、他局に比べるとそれほど力を入れてこなかったのですが、今は積極的に取り組んでいます。その中で、おなじみの「マジカル頭脳パワー!!」をイタリアでフォーマット販売、ライセンス販売をしています。マジカルラッパ伝言ゲームなど、放送開始以来、高視聴率を維持し、非常に好評を博しており、ビジネス的にも成功例といえます。これはほんの小さな一例ですが、現場としても、社としても、こういった面にも盛んに取り組んでいます。

7. 放送法改正案から放送局への処分が削除の方向になったことについて

記者：今年年頭に起きた「発掘！あるある大事典Ⅱ」問題に端を発して、放送改正案の中に再発防止計画などが盛り込まれるなどという話がありましたが、最近の一部報道などによると、その放送局への処分が削除されるのではないかという見通しが出ています。それについてはいかがでしょうか。

久保社長：このことに関しては、民放界あるいは放送界全体のテーマで、広瀬民放連会長が会見の中で繰り返しあっしゃっています。私どもとしては、広瀬会長の民放連会長としての発言に沿っていきたいと思います。

ただ、放送法の改正案の動きについては、日々毎日入る情報が違います。例えば、先週は、例の部分を削除してほぼ間違いなく通りそうだと。今週になると、急に難しくなったとか、人が集まらないので、どういう扱いにするかが棚上げになっているとか、来週に延ばされたとか、その日の午後になると、やっぱりまとまりそうだと。放送界には大変に影響の大きい、私どもにとって重要な法案だと思っていますから、午前中と午後で情報が違うとか、日々情報が違うというのを前提にお話しすることはちょっと避けたいと思います。

付言すると、要するに私どもにとって非常に重要な法案だと思っています。それがねじれ現象が生じている現在の国会での法案成立、その他にも重要な法案がいっぱいあるんでしょうが、与野党の駆け引きや、取引の材料になるような事態は回避していただきたい。中身は非常に重要ですよということに尽きます。

(了)